1996.4.15

31





東京都立武蔵高等学校 同窓会事務局 〒180 武蔵野市境4-13-28



色絵鳥瓜に山雀面取壷

高橋 誠 18回生E組

● 同窓会創設50周年記念パーティー開催●

《総会・新会員歓迎会を兼ねる》

同窓会とは青春の一頁を共に送った仲間との出会いを演出するところであり、同じ学び舎を出たと言うだけで何となく心を許せる気にさせる姿の見えないコミュニティであります。近付く者は誰でも暖かく迎えてくれます。

武蔵の同窓会がこの程創設50周年を迎えた機会を 捉え、恩師の先生方と共に一堂に会し、懐かしい 一時を過ごしましょう。

日時 6

6月2日(日)午後3時~5時

場所

吉祥寺第一ホテル 天平の間

会費

8千円(当日会場にて申し受けます)





同窓会50周年を迎えて

同窓会長 若井 博

6月2日の総会で同窓会は設立50周年を迎えます。目下、運営委員会を中心に"つどい"の企画の検討が進められています。当日は懐しい先生方や旧友達との再会を喜び合い、旧交を温め合う一刻となるような"場"であってほしいと願っています。多くの皆さんのご参加をお待ちいたします。50年の歴史の過程にはいろいろなことが有ったことでありましょう。私が同窓会の仕事に携わった37年の間だけでも数々の想い出が甦ります。

会の規模もまだ小さく、運営に当る役員も若か ったこともあって、大変活気に満ちていた時期も ありました。昭和30年台のことでした。総会とい えば、当時の武蔵カラー、フォークダンスの大き な輪に興じたり、社交ダンスの夕べを校外に会場 を求めて開催するなどしたのもこの頃だったでし ようか。総会の会場を市ケ谷のヴォーグビルに移 して開催したことも2度程ありました。が、年経 るごとに、役員も会社の中堅となり、あるいは家 事多忙になるなどの事情から、活動から遠離り、 徐々に会運営も停滞気味となりました。実は、こ の時期が長く続くこととなったのです。「会も50 年位の歴史を持つようになれば、状況も変わるよ、 それまでは地味でも活動を続けよう。」が当時の 少ない役員の間で交わされた合言葉でした。そし て、地道な運営に終始しながらも会の礎を崩すこ となく迎えた50周年。感慨深いものがあります。

しかし、この陰には多くの人々の支えがあったことも忘れることが出来ません。歴代校長先生を始め母校のご理解とご支援、とりわけ卒業生で母校の教職員となられた校内理事の方々の献身的なご協力などなど、改めて感謝を申し上げたいと思います。

会も2万人に近い会員数を擁する組織となりました。同窓会の味わいもこれからが本物となることでしょう。50周年を機に、「卒業生の親和向上と母校の発展」の目的に向けて更に力強い一歩を踏み出したいものです。



創設50周年を祝う

校長 嵐田 薫

同窓会創立50周年おめでとうございます。最近 同窓会の方々が記念事業の資料収集のために何度 か学校をたずねてこられました。お忙しいお仕事 の間隙を縫って、大変な事だと思います。この節 目の年を契機に、更に同窓会が飛躍されますよう 祈念申し上げます。

この機会に創立当時の学校の様子と比較しなが ら、武蔵高校の近況をご報告させていただきます。 昭和15年の1月に東京府立第13高等女学校として 設立され、初代校長は創立の理念として、訓育の 徹底と健康教育に重点をおくことを掲げ、人間性 の尊重にねざす人間教育に目標をおきました。こ れらの目標、理念を学習、訓育、躾等、実践によ り体得するよう指導し、特に保健衛生、体位向上 に努められました。この創立の理念を具現化する ために、さまざまな教育実践がなされました。毎 朝の朝礼で全員体操と時事問題や健康等について 訓話を行い、躾には特に注意し、気品ある行動を するように細かく注意されました。生徒達も学校 の方針を理解して、礼儀正しく、言葉遣いを上品 に、服装は端正に、動作は優雅軽快をモットーと していたので、武蔵の生徒は上品で気品が高いと 言われていました。

さて、現在の武蔵高生達はどうでしょうか。一口でいうと「個性と自主性の尊重」が教育の理念であり、武蔵の校風の基盤を作っています。6月の音楽祭、9月の体育祭・文化祭、10月の移動教室等で発揮された個性と自主性、生徒達の自主的な企画、運営の力量、情熱はすばらしいものがあります。また昼休み時、生徒達が熱心に先生に質問し、昼食もとらずに教員が質問に答えている風景に出くわします。昔も今も、授業に熱心に取り組む姿勢は変わらないようです。今年の1月のセンターテストの自己採点の結果、武蔵生達が大変優秀な成績をあげたとの情報が入っています。その成果を大いに期待したいところです。

武蔵高校の沿革

昭和15年 東京府立第13高等女学校

第1回入学 第1回生264人

昭和17年 中野より現在地に移転

昭和19年 学徒動員令により昭和飛行機へ出勤

昭和21年 第1回同窓会総会

6月3日~5日 食料難のため臨時休校

昭和24年 高等学校第1回卒業式



正門前(昭和23年頃)

昭和25年 東京都立武蔵高等学校と改称

男女共学最初の入学式 男子100名、女子207名

現校歌完成

昭和28年 男子第1回生99名卒業

初代同窓会会長 高橋辰雄(高校5回生)就任

昭和31年 大菩薩ヒュッテ落成

同窓会会報「武蔵」創刊

昭和34年 A週·B週廃止

昭和35年 第2代同窓会会長(現会長)

若井博(高校10回生)就任

昭和36年 夏休み クラス毎に大菩薩合宿が始まった

昭和37年 1月20日 火災、10教室焼失

昭和38年 鉄筋校舎(11教室、昇降口)落成

昭和39年 体育系クラブ総合合宿始まる

昭和40年 鉄筋新校舎(3教室、昇降口)落成

昭和41年 第1回全校マラソン大会始まる

(村山貯水池畔)

昭和43年 鉄筋新校舎(理科4教室落成)



昭和44年 鉄筋新校舎(校長室、事務室、普通教

室5他)落成

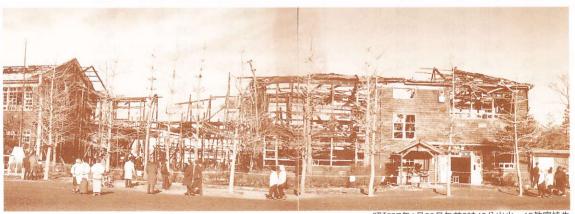
10月29日〈学園紛争〉始まる。生徒会の選挙管理委員会からの要請で臨時生徒総会開催。これより11月5日まで連続短縮授業、午後ホームルーム。11月6日~12月24日期末考査も中止され全校全日ホームルーム。生徒ホール落成

昭和45年 1月学校側から生徒への最終説明会

昭和46年~昭和49年にかけて新校舎・プールなど

が次々に完成

昭和47年 4月修学旅行廃止を学校側が発表



昭和37年1月20日午前2時40分出火 10教室燃

昭和48年 生徒集会で生徒側も修学旅行廃止を決定

同窓会会員名簿(第2版)発行

昭和51年 10月23日 不審火

冬休みスキー教室開始

昭和52年 夏休み第1回大島移動教室

昭和53年 スキー教室志賀高原に定着

昭和59年 同窓会会員名簿(第3版)を発行

多目的ホール落成

昭和61年 芸術鑑賞教室始まる(武蔵野市民文化

会館) 給食調理室·食堂落成



現在の大菩薩ヒュッテ(平成8年3月)

昭和62年 軽井沢移動教室(大島移動教室に代わ

って実施)

平成元年 会津クラス合宿

この年から大菩薩ヒュッテの公式行事

としての利用が廃止された

平成2年 体育館が工事のため、卒業式を武蔵野

市民文化会館で実施

母校創立50周年記念パーティー開催

平成3年 大菩薩ヒュッテの管理運営を山岳部OB

会が受託。

同時にOBのボランティアによる大改 修を実施。同窓会規約大改訂にともな い同窓会運営委員会組織発足



さつまいもの収穫(昭和23年頃)



大菩薩ヒュッテ(昭和37年3月頃)

平成5年 同窓会会報「武蔵」カラーページを加

え内容一新

大菩薩ヒュッテにソーラー発電機を設置

平成6年 山岳部OBのボランティア活動により、

大菩薩ヒュッテ内装改築



現在の武蔵高校(平成8年2月)

平成7年 大菩薩ヒュッテにベランダ増設 平成8年 同窓会会員名簿(第4版)を発行 同窓会創設50周年記念パーティーを開催



初代会長 高橋辰雄



第2代会長 若井博

第1回の同窓会総会が開催されたのは、昭和21年1月27日の事であった。この頃は女生徒だけしかいなかったので、同窓会長は当時の近藤校長が就任した。その後男子の第1回卒業生の高橋氏が引き継いだのであるから、正確には高橋氏は第2代であるが、生徒出身の会長と言う事で、ここでは初代会長とした。

平成8年3月末現在卒業生の総数19332人(男子8125人、女子11207人)



武蔵境駅前(昭和23年頃)

武蔵境駅前で撮影した高校2回生である。 この当時履物はほとんど下駄で、しかも鼻緒のす げて無いものが配給になった。もちろん自分達で

すげたものである。

先日運営委員会があって久 し振りに武蔵高校に行った 時、校舎の中がなんとなく 荒れている、なんとなく埃 っぽいという感じを持っ た。階段の隅、廊下の両脇 などに埃がいっぱいあり残 念な思いであった。



航空写真(昭和32年頃)

この頃の武蔵高校のまわりはほとんど雑木林と畑 だけであった。

まだ桜堤団地も無く、生物の時間には学校周辺の

雑木林に自然観察に行った 事もあった。

木造校舎の頃は下の写真の ように、一所懸命に校舎を 磨き上げたものだった。し かし、昭和37年1月20日深夜、 放火が原因と思われる火災 が発生。見るも無残な姿に なった。



焼け落ちた昇降口



〈火事を伝える当時の新聞記事〉



校舎内部の清掃(昭和22年頃)

50周年記念事業

同窓会創設50周年記念事業

『飛行機工場の少女たち』女子学生勤労動員の記録 "復刻版完成する!"

昨年は戦後50年に当たり、戦火を潜り、空襲に 遭い、家族を無くし、又戦後のひもじい生活を経 験してきた人々にとっては感慨を新たにしたもの でした。

そんな折も折、高女3回生の安藤千鶴子さんと 勝田茄津子さんから、終戦間際の数ヶ月間、昭和 飛行機工場への勤労動員の為過ごした青梅寮に纏 わる文を寄せていただき、前号でご紹介したので すが、そのなかで終戦28年後に当時の回顧録を自 費出版されたことを知った訳です。早速その本を



高女と言っても、

当時は13、4歳のいたいけない少女たちでありました。B29が無差別に焼夷弾を撤き散らすなか、家族から切り離され、芋雑炊で空腹を宥めつつ、真っ赤に腫らした手でジュラルミンを裁断し、飛行機を生産していたのでした。そんな毎日でしたが、少ない本を回し読みし、唄を合唱し、おやつを分け合い、特攻隊員に慰問袋を送ったり、笑ったり、泣いたりした感受性の豊かな乙女達の思い出が一杯詰め込まれた本です。一人でも多くの同窓生に是非読んで欲しいものです。

パーティーの会場で一部500円で販売するほか、 送料300円を共に振り込んでいただければ郵送も 致します。

★演劇部OB会 公演のお知らせ★

我々演劇部OB会では、来年2月8日(土)及び9日(日)両日に亙ってOB公演を行うことになりました。目標は、『観て楽しい、創って楽しい芝居にして、打ち上げでおいしいお酒を飲むこと』です。

参加メンバーは1972年から92年までに武蔵高校を卒業した演劇部のOB、OGのうちの希望者で、普段はサラリーマン、主婦、ミュージシャン、学生等の仮面を被っています。今回、各々仮面を脱ぎ捨て、芝居を創ることへの欲求の下に結集することになりました。現在台本の創作を始めており、夏には合宿も予定しています。従って、演目・会場などは未定ですが、今年秋までには公演案内を完成させる予定です。

公演案内が出来ましたら無料で送付させ て頂きますので、ご希望の方は下記までご 連絡ください。

600周年記念事業

"卒業生の本棚づくり"

此処数年来、同窓生の出版物を毎号採り上げご 紹介して参りましたが、今だに掲載出来たのは数

冊にしか過ぎません。しかも 誰がどんな本を出版されたか 情報の少ないのが現状です。

そこで同窓会創設50周年を 機に、全会員に広く情報の提 供を求め、皆様の作品を過去、 現在、将来に亙って収集し、 同窓会で保存していくことに なりました。

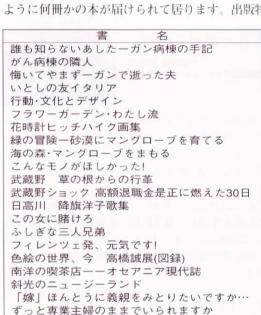
そこで母校の嵐田校長にご相談申し上げ、図書室に専用の書架を設け、在校生に閲覧して貰えれば、諸先輩の活躍が出版物を通して後輩への指針の一助にもなろうかと考えました。これ迄別表のように何冊かの本が届けられて居ります。出版物

としては、文芸書は言うに及ばず、ルポルタージュ、旅行記、専門書、評論、画集、漫画、絵本等何でも結構です。共著でも、編纂に携わったもの、自費出版、他者に依る伝記、記録等もOK。

書籍の御提供、御寄贈はもとより歓迎致しますが、著作者・題名・出版社・発行年度等の情報を頂ければ、可能な限り同窓会で購入する予定です。

本を御贈り頂ける際は、母校の図書室、篠田司書宛に直接御郵送下さい。情報は下記宛にお願いいたします。いづ

れの場合も"卒業生の本棚"の件として下さい。 皆様からの多数の情報をお待ちして居ります。



出版社	著	者		生
時事通信社	中島みち			
毎日新聞社	中島みち			
毎日新聞社	中島みち			
松香堂書店	隈木めい子(安江明子)		3E	
鹿島出版会	清水忠男		13	ВВ
農山漁村出版	松田量子(茅	₹)	11	С
阿部写真印刷	部写真印刷 小牧あい(中島愛子)		5D	
岩波書店	向後元彦		10E	
大日本図書	向後元彦		10	E
大和書房	碧海ゆき他	ļ.	3	BD
東洋経済新報社	土屋正忠		12	C
武蔵野百年史編纂室	土屋正忠 降旗洋子		12	2C
本阿弥書店			1,000	
講談社 夢野一		 国)		
リブロポート	さいとう陽			
実業之日本社	山下香緒里		39	J
鶴屋百貨店美術部	高橋誠		41	Е
筑摩書房	高橋康昌		8	3
東宛社	高橋康昌		8	3
ユック舎	上野いく子		18	Α
大正書房	上野いく子		18	BA



『フィレンツェ発、元気です!』-

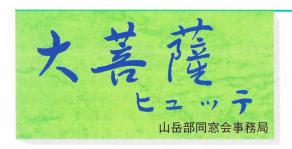
山下香緒里著(39回生)

生まれて初めての海外、フィレンツェへの単身留学を敢行した女子大生の、夏の一ヶ月の滞在記です。異文化のギャップ故の驚きと感動に満ちた日々の生活振りを、日本に当てた手紙の形でユーモラスに描写しています。

著者は美術が好きで、フィレンツェの数多い美術館や教会を丹念に回ったり、 週末には近郊の都市を旅行していますので、フィレンツェ、トスカーナ地方の観 光ガイドとしても楽しんでいただけます。

内田新哉氏のイラストも旅心を一層もりたててくれるでしょう。

実業之日本社 03-3535-4441



大菩薩ヒュッテ建設の発案者は

勝縁荘の益田さん(昭和30年)

昨年9月、一年ぶりに大菩薩ヒュッテでの「月見の会」に参加した。久しぶりのヒュッテは、後輩達(といっても四○す~五○す台)の努力の賜か、内装もほどこされ、しゃれたテラス(もちろん手製テーブル・イス付)も出来ており、なかなかの様変りであった。過ぐる年、このヒュッテの存続が危まれ、廃屋になろうとした時、心あるOB・OGが集り、ヒュッテの存続を学校当局にお願いしたことが昨日のように思い出された。その後の利用状況やヒュッテの変化を見るにつけ、残して本当に良かったと思っているのは、私だけではあるまい。

今回同窓会五十周年を迎えるにあたり、ヒュッテ誕生のいきさつを原稿にと頼まれ、久しぶりに 赤茶けたアルバムに目をとおした。

昭和30年7月20日、当時の田原先生(通称ザンバ)と担任の高橋安先生に引率され、3年A組15名が大菩薩へ二泊三日のクラス会に出発した。中央線普通列車で塩山へ、バスで裂石へ回り、そこから宿泊先の勝縁荘(現在はほとんど利用されず、ヒュッテのそばで廃屋みたいになっている)への約2~3時間の登山であった。たしか二泊共勝縁荘に泊り、二日目に大菩薩峠から頂上へ全員で登ったと記憶している。三日目に峠から小菅づたいに山をおりバスで青梅線の永川(現在の奥多摩)へ





出るというポピュラーな山行であった。ヒュッテ 建設の話しは、この勝縁荘二泊の間に小屋主の益 田さんから出た話しである。

参加した生徒のほとんどが初めての山行であり、ランプにいろりという勝縁荘で興奮ぎみであったのか、小屋主の益田さん相手に一晩中イロリを囲み、山の話しや、文学論やらと一睡もしなかった記憶がある。

益田さんは樋口一葉のオイとかイトコとか(本 当かどうか今でもわからない)大変話じょうずで、 私達は感心しながら話しを聞いていた。特に「大 菩薩峠」の著者中里介山の話しは、実際に勝縁荘 に滞在し、富士山を眺めながら執筆したとかで (現在記念館が残っている)なかなか興味ある話し であった。勝縁荘二泊の間にすっかり山行のとり こになった私達は、毎年この旅行をつづけたいも のだとの話しになり、これを聞いていた益田さん から「毎年くるなら小屋でも建てたら」と冗談と も本当ともつかない話しがとび出した。国有地の 使用許可や小屋の建設は全部面倒見るからといわ れた私達は「卒業記念品」に小屋建設はというア イディアをもって勝縁荘を後にした。学校へ戻り、 山小屋記念品の話しをしたら、近藤校長以下多勢 の生徒が替成してくれ、山岳部部長の馬場君達の 案内で校長以下が現地を視察し、ヒュッテ建設は あっという間に具体化した。昭和三十一年と二年 卒の二回生分の卒業記念として現在のヒュッテ は、昭和三十二年に建設が完了した。都立高とし てはめずらしい山小屋はこうして出来上ったわけ だが、私達の山行や、益田さんの熱意、学校長の 決断のどれ一つかけてもこのヒュッテは誕生しな かった筈である。ただただ益田さんに感謝感謝で ある。(昭和三十一年卒 松尾博之)

色絵、染付けの磁器に独特の境地を拓く

高橋 誠氏(18回E組)

2月29日、取材のため小田原の二つ先、根府川 迄行く。駅を降りたのは見知らぬご婦人と二人、 無論無人駅である。駅の南、眼下に春の海が眠た げに光り、北には箱根山に続く蜜柑山の緑が濃い。

程なく車の音と共にビッグホーンからむさい男が降りて来る。初対面ではあるがそこは同窓生同志、やあ、やあと挨拶を交し、少しく山を登ると蜜柑畑の中に御自宅があり、かわいい奥様が迎えて下さる。

彼がこの根府川に築窯したのは昭和61年、此処は小鳥の天国で、こじゅけい、あかげら、もず、かけす、つぐみ、ほほじろ、ひよ、めじろ、むくどり、うぐいす、しじゅうから、と絵付けの題材に事欠かないところが自慢。庭木のそこかしこに餌台があって、居ながらにしてスケッチが出来る。

花鳥風月と一緒に生活もする芸術家である。轆轤から下ろして乾燥させている最中の作品に混じって、ちまちまとしたオブジェ風の小品群が目に止まった。3人居るお子さん達が小さい頃ひねったもので、早く焼いてやらなくては、と言いつつ子煩悩な親父でもあった。作品はなかなか大した

もので、写真だけでは真価が何処まで解って頂けるか、10月17日~26日(日曜休廊)に銀座工芸むら田にて個展が開かれるので是非お出掛けになることをお薦めしたい。









色絵黄鶺鴒と翡翠図大皿

/Ш

高橋誠略歴

昭和23年 埼玉県大宮に生まれる

41年 都立武蔵高校卒

51年 東京芸術大学院修士終了 藤本能道氏に弟子入り

伝統工芸新作展に入選

59年 日本工芸会正会員になる

61年 小田原市根府川に築窯、独立

62年 銀座「工芸むら田」にて第1回個展

63年 日本橋三越にて第1回個展

以後各地にて個展

平成8年 銀座「工芸むら田」にて第6回個展

(中央区銀座8-5銀座ナイン1号2階

Tel.03-3571-2505)

香合

色絵拓榴に雀の六角筥

編集後記

同窓会創設50周年パーティの出欠席の葉書を同封する必要上、一月程早めの発行となり、先生方の移動、新幹事・理事の紹介、卒業生の進路発表等は不掲載となりましたことをお詫びします。

今回図らずも武蔵高校の歴史を振り返ることになりました。木造校舎が焼けました。 現在の鉄筋コンクリートの校舎は、飲み食いした残骸がごみ箱に溢れているなど、生 徒の気質が変化してきたことを示していま した。武蔵の伝統とされる自由・自主の気 風が廃れないことを念願し、編集後記とし ます。

目黒記